

国際ロータリー第 2500 地区第 6 分區

# 帯広東ロータリークラブ会報



ROTARY  
SERVING  
HUMANITY

2016-2017 年度  
帯広東ロータリークラブ

会 長 高 田 進  
幹 事 石 川 博 機  
メディア委員長 上野 敏 郎



## 第1565回例会

平成29年5月9日(火) 於 ホテル日航ノースランド帯広

■創 立：1984年6月15日 ■認証：1984年6月18日 ■例会：毎週火曜日 12:30～13:30  
■事務局：帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F Tel.0155-25-7347 ■会場：ホテル日航ノースランド帯広

S.Mori



### 2016-2017 年度 国際ロータリーテーマ 【人類に奉仕するロータリー】

2016-2017 年度国際ロータリー会長  
ジョンF・ジャーム

### ガバナーテーマ 【ロータリーの明日のために、積極的に行動しよう】

国際ロータリー第 2500 地区 ガバナー  
駒 形 曙 美

### 月間テーマ 【青少年奉仕月間】

- ◎起 立 加藤昭治 副SAA
- ◎友情の握手 加藤昭治 副SAA
- ◎点 鐘 高田 進 会 長
- ◎開 会 宣 言 加藤昭治 副SAA
- ◎国 歌 斉 唱 加藤昭治 副SAA

#### ロータリーソング 「四つのテスト」

- ◎ゲスト紹介 高田 進 会 長  
日本銀行帯広事務所 所長 加藤健吾 様(帯広RC)  
米山記念奨学生 藩 志飛 様

#### 5月結婚記念日を迎える会員 古川直也 親睦活動委員長

- 神田光則 会員 昭和43年 5月 8日
- 池田 誠 会員 平成 7年 5月28日
- 及川武一 会員 平成28年 5月 8日

#### 5月誕生日を迎える会員 古川直也 親睦活動委員長

- 古川 豊 会員 昭和17年 5月15日
- 内山智洋 会員 昭和18年 5月28日
- 齊藤蓮輝 会員 昭和20年 5月13日
- 大池梨華 会員 昭和63年 5月31日

- ◎パースデーソング 古川直也 親睦活動委員長
- ◎乾 杯 上野敏郎 会 員
- ◎会 食

#### 会長挨拶 高田 進 会 長

皆さんこんにちは。  
まず最初に、久しぶりに顔を見せてくれた板倉会員元  
気になられたようでおめでとうございます。



ゴールデンウィークの関係で例  
会の間が空きまして、何か私も休  
みをいただいたような感じで何か  
慣れない感じを思います。

先々週の3クラブ合同例会も何  
とか終わりました、最後の大きな  
イベントも私としては終わったか

なという感じで、残り2ヶ月残すのみとなりましたので、  
ちょっと気持ちが楽になりました。

本日の夜ですが次年度のクラブ協議会ということで、  
いよいよ次年度が近づいてきたかなと感じています。

時間ということを考えますと、人は年齢を重ねると  
に時間の経過を早く感じるものだといわれています。

確かに記憶の中では子どもの頃は長かった感じがしま  
す。最近特に60歳を過ぎてからは時間は加速しているよ  
うな感覚がします。

ただ自分としては、今年に限ると長い1年になったか  
なと感じています。

新しいこと学習したり、旅行いったり、初めての場所  
を訪ねたり、未経験のことを見たり感じたりすると、脳  
の刺激により記憶に残り時間の経過が長く感じると言わ  
れているようです。

先日、寒河江さくらんぼロータリークラブの会長の方  
から連絡がありまして、無事帰りました、大変お世話に  
なりました、会員の皆様方によるしくお伝え下さいと言  
うことでした。

寒河江さくらんぼロータリークラブは設立30周年を迎  
えるということで、当クラブも次時年度に35周年を迎  
えることとなりますので、何らかの交流が出来ればいな  
と思っています。

先方も年度替わりでこれから忙しいようですが、会員  
の個人的な旅行であるとか、日程等があればお互いの例  
会出席やホームページでの会話の交流というのもいいの  
ではないかなと考えてます。

本日は加藤日銀帯広所長の江戸時代の貨幣制度の話で  
すが、自分の江戸時代の貨幣や暮らし・経済に興味があ  
りまして何冊か本は読んでいます。江戸の文化や貨幣・  
経済は入り込むと非常に面白くもっと若い内に勉強して  
いけば良かったと思っています。

本日の卓話が非常に楽しみです。以上挨拶とさせてい  
ただきます。ありがとうございました。

## 会務報告

石川博機 幹事

- ◎帯広北・帯広東・音更 3RC 合同育樹祭開催のご案内  
日 時 平成29年5月21日(日)  
午前10時集合(小雨天開催)  
場 所 とかちエコロジーパーク  
集合場所：事務所北側職員駐車場  
※お子様、お孫様のご参加 大歓迎！  
昼食は焼肉を予定しています。  
※帯広東RC 5月23日(火)の繰上げ例会と致します。

## 委員会報告

米山記念奨学委員会 深澤佳世子 委員長

米山記念奨学生 潘 志飛 様

皆さん初めまして。帯広畜産大学に通う潘志飛と申します。中国から来まして今年の6月にここにきて4年になります。米山奨学金をいただけてとても助かります。これからの2年間皆様よろしくお祈いします。



## 委員会報告

職業奉仕委員長 大塚正昭 委員長

皆さんこんにちは。6月の第1週に優良職業人の表彰をするという計画で、職業奉仕委員会を担当しております。

1月の担当例会の時にどなたか自分の会社あるいは身近な会社の中で、これぞと思われる方を推薦していただきたいとお話をしましたが、未だ私の方にはお話が来てないということで、この場を借りてもう一度皆様方に検討していただき推薦をしていただきたいと思ってお話させていただきました。

時間的に余りありませんので、是非とも早急にお祈いをいたしたいと思っております。よろしくお祈いします。



## ニコニコ献金

親睦活動委員会 越浦 豊 副委員長

4月18日分

- 大塚会員 17日夜寒河江さくらんぼロータリークラブの皆様と、楽しい一時を過ごさせていただきました。新しい友好の輪が広がり、気分一新。
- 齊藤会員 寒河江さくらんぼRC相原会長御一行に対し、心よりご歓迎申し上げます。この度の御縁を大事にして参りたいと存じます。
- 上野会員 今日は、メディア委員会担当例会です。この例会に寒河江さくらんぼロータリークラブの相原会長他、3名のお客様をむかえることができ、嬉しく思います。雪はいりません。
- 高橋会員 寒河江さくらんぼロータリークラブの皆様を歓迎して！
- 益子会員 結婚記念日のお祝いを頂き有難うございま



した。

- 古川会員 寒河江の皆様、ようこそお越し下さいました。本日の雪にはビックリですね。これからの交流を楽しみにしています。
- 池田会員 寒河江さくらんぼロータリークラブの皆様ようこそ「とかち帯広」へ
- 加藤(武)会員 今日札幌出張の社員が吹雪きを避けて無事帰って来ました。安心してニコニコします。
- 角会員 寒河江の皆様、ようこそ帯広へ、ニコニコします！
- 及川会員 寒河江さくらんぼロータリークラブのみなさん昨日からありがとうございました。とてもいい出会いに感謝しております。

5月9日分

- 高田会長 島根県松江城・出雲大社へ行ってきました。
- 石川幹事 網走での地区協議会に参加の皆さん御苦労様でした。
- 板倉会員 胃ガン全摘手術をし4月27日無事刑期を終え出所しました。皆様には大変なご心配をおかけしました。
- 神田会員 結婚記念日のお祝いを頂き有難うございました。
- 西藤会員 帰って来た板さん、ご苦労さん、無理とは思いますがしばし、ご自愛を……
- 齊藤会員 誕生日に記念品を頂き有難うございました。
- 上野会員 帯広の姉妹都市松崎町長へ嶺野すすむさんの本「とかち人物歴史館」を渡してきました。
- 加藤(雄)会員 今年の初山登りアポイ岳へ行ってきました。サマニユキワリ草にニコニコ。
- 高橋会員 今日、会員増強・情報委員会担当例会です。宜しくお祈い致します。
- 深澤会員 今月から奨学生の潘さんが東ロータリーの皆様のお仲間になります。2年間宜しくお祈いします。
- 古川会員 今晚は、17-18年度第1回クラブ協議会です。いよいよです。板倉会員、退院まことにおめでとうございませう。元気なご様子で安心しました。
- 大池会員 ゴールデンウィークに鳥取に行ってきました。砂丘を歩いてとてもリフレッシュできました。そして誕生日の記念品を頂きありがとうございます。
- 及川会員 結婚記念日のお祝いを頂き有難うございました。

## プログラム

会員増強・ロータリー情報委員会

【ゲスト卓話】

テーマ：【戦国、江戸時代の貨幣政策】

日本銀行帯広事務所 所長 加藤健吾 様

日銀に帯広所長をやっております加藤と申します。帯広ロータリークラブの会員でもございます。

日銀の帯広事務所って何をやっているんだと申し上げますと、大きなことは二つの仕事があります。



一つは十勝地域の皆々様に現金を供給することです。

二つ目は十勝の景気の動向を把握して、それを本部の方に報告をしています。それは公表されています。

今日の話の内容は主として「戦国、江戸時代」の話なのです。前段階として古代「平安朝」、中世「武士の時代」鎌倉・南北朝この辺も若干ふれながらお話しします。

まず古代、そもそも貨幣など何にも無かった我が国が、どっから入ってきたのかなんですけど7世紀後半頃、時の奈良・飛鳥・平安朝の頃いわゆる律令国家を日本もやりたい、当時はやっぱり世界の最先端は中国でございまして、様々な国家制度・貨幣制度は当時として完璧だったのです。やはり日本もそのマネをしたいということで、和同開珎というものを作りました。茨城県の辺りに日本でも銅が見つかって作り始めたそうです。如何せん銅の歳出量が絶対的に不足しておりまして、作った量が少なかったのです。何らかの原因で現金が10分の1しか供給できないとなったときどうなりますか、物は買いたいんだけど自分の財布の中とか預金の口座とかが、完全に10分の1になると考えていただければいいのですが、結果的には物価は下がらざるおえないわけです。買いたいと思っても手持ちが無い、つまりデフレーションになります。当時にこの問題が起こったので逆にどうするかというと、銅の含有量を引き下げて薄くのばして貨幣の数を増やすことをしたのです。しかしこれをやると通貨の中の銅の含有量が減ってしまい、粗悪な貨幣になります。結局もとのもくあみで11世紀には元の物々交換戻りました。古代期の平安期の起こったことなのです。

さて次に武士の時代になり鎌倉時代です。この時代は中国から大量の銭とか貨幣が流入しました。何故かというの一つ言われているのが、当時中国は宋が弱くなって元と交流した時期です。元は紙のお金(紙幣)を早く導入していたらしく、一方宋は貨幣を沢山鑄造した有名な国です。元が勝って宋が滅びたので、結果的には宋の時代に流通した貨幣が余り、交易を通じて日本に流れ込んだのが一番の理由でないかと研究者は言っているようです。日本もじわじわ米の生産とか反物とかそういった物も生産が増え、銭とか貨幣の需要も増えるわけです。当時は外国で作られた貨幣が大量に我が国の中で流通し、日本の政府は全くそれに関与していない面白い時代だったのです。この当時私鑄銭といって地方の豪族とか技術を持っている人が勝手にまねして作る。違法な物もありました。誰もコントロールしてない武士の時代の初期でした。

15世紀半ばに突然それが不安定化して良い銭と悪い銭の選別が始まったことがわかってます。諸説ありますが一つは中国で明が銅を原材料とする銅貨から銀貨に切り替えたらしいです。この過程で中国の方では貨幣の価値が変動したようです。

戦国期になります。戦国期は動乱の時代なので交易とかも減ってます。渡来船の流入は途絶えてしまいます。したがって人様のまねした私鑄銭と昔からある渡来銭だけで、昔からあるので欠けたり割れたりするわけです。こういう悪銭で回っていて、そうすると欠けてしまう物は信用できないので、銭離れがもう一回発生します。大口取引は米を中心に行われたのが戦国時代の方法でした。

この頃一方甲斐の武田信玄とか金脈とか見つけました。石州岩見で銀山とか見つかりました。各地で金とか銀が見つかりまして、各地の戦国大名は軍資金を賄うということで、金とか銀を使って自分のところで領内経済用に金貨銀貨を作っていました。

信長の時代になります。おそらく彼は歴史とかも学んでいたはずで、自国の通貨貨幣制度は自国でコントロールするというのを、おそらく目指していたのではないかと思います。その証拠というのが彼は最初に1569年の頃に京都を支配してまして、これは悪銭、欠けてるとか悪い銭を4段階にランキングして、悪い物をデスカウントするというのを、こんな物使えないといって眠っていた古い貨幣をもう一回市場に引っ張り出したのです。高額取引では金とか銀を使うと、米は高額取引で使わないで、あと金銀銅貨の交換比率を臨時に決めたり、出来る限り貨幣の流通を当時出来る限り促進させ、彼は楽市楽座とか経済活動、商人の経済活動を非常に重視した人間なので、おそらく彼は自分の支配圏内における経済活動を活発化させるためには、米に頼ってるだけではだめで、貨幣が必要だということを知っていたと思われる。米というのは収穫する時期が限定されますので、マネーサプライが季節によって増えたり減ったりすることなのです。そういったものでは経済活動は限界があるということなのです。

次に秀吉の時代になります。秀吉は信長の死後、彼は西暦700年代後半に行われた国家による貨幣鑄造というのを800年振りくらいに復活させました。この当時いろんな戦費が沢山でるので領主財政が急拡大して、楽市楽座みたいのがあって経済も発展しますので、貨幣経済が急速に膨張したのです。彼は諸国の鉱山を掌握して、800年振りくらいに政府公認の天正大判という金貨、毅然たる貨幣を鑄造いたしました。彼は信長が貨幣経済で復活をはかり、秀吉は政府通貨をもう一回再発行したということなのです。秀吉は推測なのですが、それ以上のビジョンを持っていたのかどうかわからなくて、彼はおそらく信長がやろうとしたことを受け継いだのかと思います。

家康になって徳川幕府になりました。ここにきてようやく、幕府が国の通貨を管理するという体制を完成させたと思います。まず彼は、大名による私鑄銭とかを勝手作るなどを禁止しました。出回る物は必ず「公中」公で作った物だけにするというルールを作りました。それからもう一回、金と銀と銅貨と銭の間の交換比率をガッチリ決めました。これはルールだけを作ってもだめで、実現させるためには国民が安心して使えるような、良質な公中銅貨「寛永通宝」を作りました。この寛永通宝というのは大量に幕府が作らせた。これを作ることでまだまだ出回っていた、かつてのびた銭、大昔からの渡来銭、かつての戦国大名が勝手に作った物を、市場から回収してこうした公中硬貨と交換する、ということをして徳川幕府はやりました。これが完全に完成するのは元禄時代なので何十年もかかりました。ここにきてようやく日本国内に出回る、貨幣というのは幕府が作った物のみであるという世界がようやく完成したということなのです。

小話なのですが、家康は関ヶ原合戦を経て実権を握ったあと、慶長金貨というのを実権を握ったところで発行している。これが有名な慶長大判です。貨幣を作らせる場所として、大判を作る場所として大判座、金貨を作る場所として金座、銀貨を作る場所として銀座というのを設立しました。お気づきと思うのですが今の銀座というのはここからきてます、当時の江戸幕府がおいた銀座の場所というのは今の銀座です。ちなみに金座というのは日本銀行の本店にありました。

幕府は数百年続いたわけですが、その中でもいろいろ動きがあり、作られていた慶長金貨も70年~80年立ちますと、劣化してしまいます、欠けたり割れたりします。

元禄の時代は大盤振る舞いといわれるぐらいですから、沢山のお金が使われ幕府のお金も使われました。いわゆる公的財政も悪化しました。元禄8年に幕府はそれまで慶長金貨体型なのですけど改鋳をいたしました。改鋳というのは、金の含有量を大幅に切り下げて、確か3分1~4分の1くらいにいわゆる悪鋳ともいわれています。その差額は幕府がポケットに入れられました。つまり改鋳前の慶長金貨1枚に含まれている金の4分1で作られてまして、1枚の慶長金貨から慶長金貨4枚作られます。庶民から1枚回収して新しい金貨1枚渡して、3枚分は自分のポケットに入れることをしたわけです。それが幕府の支出の方に回ったということです。私が学校で習った頃には、とんでもない悪いことで貨幣の価値を悪くしてこれが極端なインフレにつながったと学びました。間違いではないけど、その後の研究成果で必ずしも悪いことではなかったかもしれない。元禄期というのは、江戸幕府によって日本が安定しているから経済成長が着実に高まっていて、そうすると貨幣需要も高まって貨幣を増やすことは必要だと思います。これは綱吉の時代に行われているのですが、この改鋳は二つの意味があって、一つは経済成長に応じた貨幣供給を増やす、もう一つは自分たちのポケットが辛いのでこれを埋めたい、二つの意味があったのかと思います。

この改鋳をやったのが、勘定奉行荻原重秀なのです、この方は紙に残した言動を探ると、中々先進的な考え方を持ってました。彼は何をいったかという「貨幣は国家が作る所がれきをを持ってこれを行うべし」つまりこの頃は地球全体見回しても、貨幣というのは金銀とか宝石だと思ふのです。いずれも希少なものです。希少だから価値がある誰も政府など信用できない。最後は金銀だ宝石だが地球の中における常だったのです。けど、彼はそうでなくて貨幣は国家が作る物であって、それは別に金銀でもなくてがれきでもいい、だから金の含有量を4分の1に減らしてもいいと言ってるのです。これは当時の世界の中では相当先駆的な考え方、つまり江戸幕府が日本において確固たる信用がある、裏返しだと思ふのですが、それにしても先駆的なことだといえます。彼は良い面もあったのですが、そうはいつても4倍ぐらい増えてしまい、それを政府の支出に当てた事により結果的にはインフレにつながり、方や金の含有量が減って、偽物を作りやすくなり御公儀の信頼がゆらいだという問題がありました。

世の中家宣の時代になり、補佐する儒学者の新井白石が、荻原重秀のすることがひどすぎる、価値が下がり物価が上がり庶民が苦しんでる。そして彼は全部元に戻す金の含有量を全部戻しました。インフレは収まったのですが貨幣の量は4分1になりデフレーションになり物価が急激に下がりました。一方で米の生産量が増えて、実状と貨幣の供給がアンバランスになりデフレーションがおこり、米の価格が下がる年貢なので幕府の財政にも悪影響をあたえ、良かれと思っても荻原のやった二つの意味の内の国家財政は良くなったが、貨幣を増やすことを否定して、結果的には大混乱に陥りました。

吉宗の時代には享保の改革でいろいろしたので、それだけではなくて武士と農民が困窮してるので、米の価格だけ引き上げ米の市場に公的介入を行って、買い付けるのですが長持ちしない。大岡越前の助言を得て貨幣を増やしました。これが素晴らしいのが財政に入れたのではないことです。当時にヘリコプターマネーをしたことです。結果的には貨幣供給量は4割位増えて物価は急速に上昇したことです。

このころの統計が残ってまして、元禄の改鋳で荻原重秀が一旦増やして物価が上がったはずですが新井白石が戻して物価が下がりました。下がりすぎたので米の買い付け令で吉宗が一旦戻したのですが所詮公的介入は限界があるので下がってしまいました。元文の改鋳の大岡越前の助言で上がったということでもあります。この後は比較的安定するということでもあります。

幕府の中でもう一回混乱が起きたのは幕末期です。江戸幕府は完全に貿易を鎖国で個々に管理していたので、支払い次第でも海外の支払いと国内の支払いが分断できてました。日本国内における金銀の交換比率と、世界における金銀交換比率は完全に分断されていて、開国するということにはそう簡単にいきません。相場の違いで日本の金貨が国外に流出して、さすがに政府もまずいと気がついて、途中で金貨の中金の含有量を3分1に減らすことをしました。

円の誕生は明治維新の直後ですけど、1871年円条例を設けて当時は1ドル1円でスタートしました。

日本銀行というのは西南戦争あと、西南戦争の時に政府は膨大な戦費が必要だったので、不換紙幣つまり金銀で交換できないもので沢山作って、当然これはまたインフレになり株価は2倍に急騰して、人々はこんな紙使ってもらえないということで、また銀貨を求めるということで1880年当時の松方大蔵卿は、緊縮財政と不換紙幣が完全整理して日本銀行というものを政府とは別に作って、そこに貨幣をコントロールさせるということで、1882年(明治15年)に日本銀行は開業しました。

◎閉会宣言

加藤 昭治 副SAA

◎点 鐘

高田 進 会 長

次週プログラム

青少年奉仕・ローターアクト委員会

5月16日(火)「会員卓話」 池田 誠 委員長

ゲスト：第6分区ガバナー補佐

奥原 宏 様